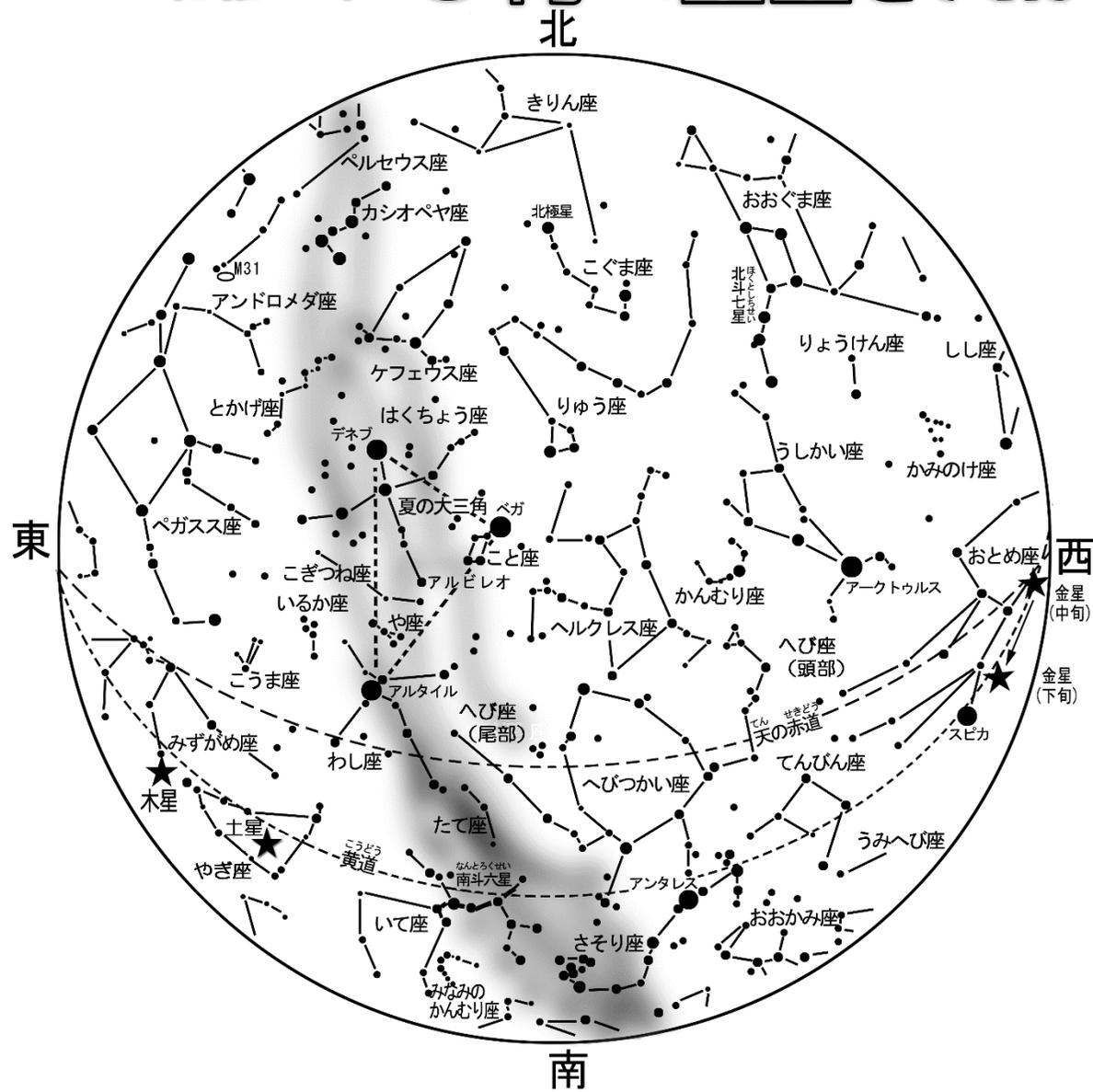


令和3年 8月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



夏の星座探しは、『夏の大三角』を探すところから始めましょう。ちょうど頭の真上あたりにひとときわ明るく輝く星があります。この星は、こと座の1等星ベガです。ベガから南東の空に目線を移すと見つかる明るい星が、わし座の1等星アルタイルです。ベガから北東に目線を移すと、はくちょう座の1等星デネブが輝いています。この3つの1等星を結びとできる大きな三角形が『夏の大三角』です。また、ベガは七夕のお話に登場する“織り姫”として、アルタイルは“彦星”として知られています。そして七夕のお話の通り、織り姫星と彦星の間には天の川が見られます。また、南の空の低いところには、「アルファベットのSの字」のような星の並びが目印のさそり座があります。さそりの心臓のあたりで赤っぽく輝く星は1等星のアンタレスです。アンタレスから東に目線を移すと、6つの星でできる「スプーン」のような星の並び『南斗六星』が見つかります。南斗六星を含む星座は、いて座です。このいて座付近は天の川が最も明るく見える部分です。今年の夏、街明かりの少ない所で夏の星座と天の川を探してみたいはいかがでしょうか。

<見ごろの惑星> (☆マークは、今月のおすすめです。)

水星 (-0.8 等前後) : かに座→おとめ座付近	観望に適さない
☆金星 (-4.0 等前後) : しし座→おとめ座付近	日の入後、西の低空でひとときわ明るく輝く
火星 (1.8 等前後) : しし座付近	観望に適さない
☆木星 (-2.9 等前後) : みずがめ座→やぎ座付近	22 時頃、南南東の空で明るく輝く
☆土星 (0.2 等前後) : やぎ座付近	22 時頃、南東の空で輝く

注目の天文現象 ～2つの惑星が衝 一晩中観望を楽しもう～

8月には2つの惑星が衝となります。衝とは地球からみて、外惑星が太陽とちょうど反対の位置にくる瞬間のことです。衝となる時期は、惑星と地球との距離が近くなり、明るく見えています。また、日の入り頃に東の空から昇り、日の出頃に西の空に沈むので一晩中観望を楽しむことができます。今年の8月に衝となる惑星は、土星と木星です。この2つの惑星は、明るい星の少ない秋の星座付近で、明るく輝いているので目をひくことでしょう。

まず、2日に衝となる土星は明るさが約0.2等で、やぎ座の所で輝いています。次いで、20日には木星が衝となります。木星の明るさは約-3.0等で、みずがめ座とやぎ座の境界で明るく輝いています。

また、望遠鏡をお持ちの方は、木星から少し離れた場所にあるイオ、エウロパ、ガニメデ、カリストの4つの衛星を観察するのもおすすめです。これら4つの衛星は木星のまわりを公転しているため、数日間継続して観察すると見える衛星の数や並びが変わっていく様子を確認できるでしょう。

ぜひ、この機会に衝をむかえた2つの惑星を楽しんでみてはいかがでしょうか。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
2	月	土星が衝：観望の好期 (20:20)	16	月	☾ 上弦 (00:20)
8	日	● 新月 (22:50)	20	金	木星が衝：観望の好期 (19:00)
13	金	4時頃、ペルセウス座流星群が極大 (条件：最良)	22	日	☉ 満月 (21:02)
14	土	旧七夕	30	月	☾ 下弦 (16:13)